

平成 28 年 8 月 8 日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 館 田鶴子 様

中央大学図書館事務部情報資料課
涌井 絵未奈

2016 年度海外認定研修 (B) 参加報告書

2016 年 6 月 21 日 (火) より 6 月 28 日 (火) まで、2016 年度海外認定研修 (B) に参加しましたので、別紙のとおり報告いたします。

【2016 年度海外認定研修 (B) : ALA・米国図書館研修 2016】

日程 : 2016 年 6 月 21 日 (火) ~ 2016 年 6 月 28 日 (火)

訪問機関 : 下記 2 都市 8 カ所

< ワシントン D.C. (6 月 21 日 ~ 23 日) >

Association of Research Libraries, Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Library, National Gallery of Art Library, Georgetown University Library, Library of Congress

< オーランド (6 月 24 日 ~ 26 日) >

Disney Marketing Resource Center, Orland Public Library, ALA Annual Conference

主催 : 図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社、株式会社 JTB コーポレートセールス

参加者 : 24 名 (私大図書館関係 7 名、公共図書館 1 名、企業 8 名、事務局 8 名)

1. 研修目的

米国のワシントン・オーランドに位置する各種図書館の訪問や意見交換、米国図書館協会（ALA）年次総会の見学を通じて、米国図書館の最新事情を学ぶ。

2. 研修報告

I. 図書館見学 ※蔵書数等は訪問当時のもの、各機関ホームページ等による。

(1) Association of Research Libraries (ARL)

設立：1932年

北米を代表する124の研究図書館が会員となって組織する図書館協会である。学術コミュニケーションや公共政策の環境変化が、研究図書館やサービス対象である多様なコミュニティに与える影響に資することを使命とし、米国と諸外国間における著作権法や、教育、図書館評価などに取り組んでいる。全会員図書館の資料購入費は総額で毎年14億ドルを超え、大学・研究図書館界で大きな割合を占めている。



[ARLが入るビル]

(2) Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Library

設立：1923年

蔵書：約9万冊（半数が日本語・中国語資料）



[フリーア美術館]

スミソニアン図書館群の1つで、Charles Lang Freerの寄附により設立したフリーア美術館、Dr. Arthur M. Sacklerの寄附により設立したサックラーギャラリーをサポートする図書館である。実業家だったCharles Lang Freerが収集したコレクションには、江戸時代の絵本が多く、アジア美術の商業記録の研究に資するような美術品の購入履歴、コレクターやディーラーと交わした手紙なども多く保管されている。これらコレクションは徐々にデジタル化しているとのことである。

【スミソニアン図書館】

スミソニアン博物館の設立当初より、一般公開を行っている（事前予約制）。現在は21の分館で約200万冊の蔵書を誇り、年間予算1,600万ドル、135名の職員によって運営されている。



[Adopt-a-Book の一例（修復基金の募集）¹⁾

今後、沢山の文化的な遺産をデジタル化し、来館が困難な人からのアクセス拡大にさらに注力していきたいとのことだが、多くの人に図書館活動を知ってもらい、協力や支援につなげることに積極的に取り組まれているように思われた。

(3) National Gallery of Art Library

設立：1941年

蔵書：約48万5千冊

ナショナルギャラリーや研究者をサポートするために併設された図書館で、ほとんどがギャラリーに関する芸術資料のため西洋の図書を多く所蔵している。人文学中心のため紙資料が多いが、デジタル化のプロジェクトも進めているとのことである。しかし、元々30万冊収蔵の建物に対し既に収容量を超えている現状に、外部保管庫なども検討しているが、資料へのアクセス悪化が懸念されるといったジレンマも話されていた。

(4) Georgetown University Library



【ジョージタウン大学】

創立：1789年

学部学科：8つの大学院・学部と附属病院

学生数：約16,000人

アメリカで最も古いカトリック系私立大学で、政治や国際関係の分野などで有名である。

<Healy Hall> 大学のシンボルとなる建物で、1891年～1970年までは同ホール内にあるRiggs Libraryがメインライブラリーとして機能していた。

¹⁾ スミソニアン図書館ホームページより

<http://library.si.edu/donate/adopt-a-book/book-trades-or-library-useful-arts> (2016-07-31)

【図書館】

蔵書：約 384 万冊（約 140 万冊の eBook を含む）

学部生・院生のためのメインライブラリーである Joseph Mark Lauinger Memorial Library の他、法律や科学など 10 館の各図書館でサービスを提供している。

<Joseph Mark Lauinger Memorial Library>

平日 24 時間、週末は朝 8 時より翌朝 3 時まで開館しており、Midnight Mug と呼ばれるカフェも設けられている。（※開館時間等は学期期間中のもの）Gelardin New Media Center や、3D プリンターを備えた Maker Hub では、学生が新しい技術に触れ、各分野の研究に活用することが可能である。また、The Booth Family Center for Special Collections では、稀観書や手稿などを閲覧できる研究スペース、プロジェクターを整えたクラスルームを提供し、改装から 1 年ほどだが利用は過去 5 年間よりも多いとのことであった。



【メディアセンター内のクラスルーム】

<Gelardin New Media Center>

カメラ、コンピュータなど各種機器の貸し出し、撮影所やバーチャルリアリティーなど最新機材が揃い、学部やキャリアセンターとの連携やワークショップも行われている。

カヌーに乗ってポトマックの桜を 360 度撮影し、ハンディキャップのためにカヌーに乗ることができない子供たちに体験してもらった例を挙げられていた。

教育・研究支援などはサブジェクト・ライブラリアン中心に各学部や教員と協力して進められており、チャットでのレファレンスやコンサルティングも実施している。また、ワシントン近郊の 9 大学によるコンソーシアム (Washington Research Library Consortium) に加盟し、電子書籍の共同購入や ILL など連携を図っているとのことである。

夏季休暇期間のため学生が利用している姿をあまり見られなかったが、この休暇期間中に蔵書の外部保管への移動など再編作業を行うと話されていた。

(5) Library of Congress (Thomas Jefferson Building)



設立：1800年

蔵書：1億6,200万点以上（書籍の他、写真、映像、楽譜などを含む）

立法の調査のために創られた米国初の国立文化施設で、世界最大の規模を誇っている。現在は、著作権局、デジタル化、海外拠点を通じた米国内入手が難しい資料の収集など幅広く活動し、国立図書館としても機能を果たしている。

【主閲覧室】

訪問時には、コレクションの修復・保存、初・中等教育へのアウトリーチ、ハンディキャップを持つ方へのサービスについて、各々に精通する担当者より話を伺うことができた。

(6) Disney Marketing Resource Center

ディズニーのマーケティング戦略を支援すること、事実やイメージを正確に伝え、全社にリソースを提供するために、マルチメディア資料などのカタログ化やデータベースへの登録、歴史的なコレクションの保存等を行っている。

(7) Orland Public Library



設立：1923年

全16館より成るオレンジ・カウンティ図書館システムの中央館として機能する図書館である。館内には子供図書館やティーン向けのスタディルーム、イベント用のステージ、ミーティングルームなどが区画され、児童向けのサマーリーディング、大人向けの生涯学習プログラムなど数々のイベントが企画・実施されている。

【イベント用のステージ】 作家の講演会などが行われることもある。

寄附を基に設立されたメルローズセンターでは、シミュレーター（フォークリフト、フライトなど）、写真・音響・映像制作スタジオ、3Dプリンターを備えた Fab Lab など、各専門家が選んだ最先端の機材やコラボレーションステーションを設置し、多数のクラスなどを展開している。

(8) ALA (American Library Association) Annual Conference

【ALA】

設立：1876年

世界で最初に結成された最大の図書館協会で、2015年に新しく“Library Transform”と呼ばれるキャンペーンを展開し、図書館が学び・創造し・共有する、コミュニティの中心として機能するべく活動を行っている。



年次総会では、多数の出展企業や団体による展示ブース、各テーマで開催されるセッションで活気があり、[展示会場の様子]
全米各地から集まった図書館員の情報交換や交流の場であることを体感できた。

II. ミーティング・ALA セッション

各訪問先で、図書館員より多岐に渡る現場の声を伺うことができた。その中でも大学図書館の資料収集、ALA セッションについて報告する。

(1) 大学図書館の資料収集について

ARLにて米国の大学図書館概況について、学生数が増加する反面、大学全体の経費に対する図書館予算やスタッフ数は減少しているとの説明を受けた。しかし、継続資料（電子ジャーナル・雑誌・新聞など）への支出は26年間で456%も増大（1986年比、2012年時点）しており、特にデジタルへの要望は益々増えるだろうとのことである。実際に、後日見学したジョージタウン大学図書館でも、電子ジャーナルについてはコストパフォーマンスや教員からのフィードバックを基にタイトルの見直しを実施し、今後の課題でもあると話されていた。契約外タイトルに関しては、ILLを通じ他大学からの借用を依頼することもあるとのことである。

研究に必要な資料を収集し提供するにあたり、限られた予算との苦闘を迫られている点は日本も米国も変わらないことに共感を覚えた。しかしながら、電子資料と冊子体のバランス、書庫の狭隘化なども含め、資料収集において各図書館が課題を抱えていることを改めて実感する内容であった。

(2) ALA セッションについて

① US copyright updates, fair use, and the latest on eBooks in public libraries

ツアー参加者向けに設定されたセッションで、著作権法やフェアユース、電子書籍について講演を受けた。特に電子書籍に関して、5年前には出版者が公共図書館への販売に難色を示していたが、「図書を借りる人は購買者でもあること」、「図書館が発見の場となり売り上げにつながることに理解を得られたことで貸出許可やディスカバリーサービスへの注力につながった」との話は興味深かった。

②Taking Our Seat at the Table : How Academic Librarians Can Help Shape the Future of Higher Education

将来のより良い教育環境を目指して図書館で実施されているアイデアなどについて、4人のスピーカーよりプレゼンテーションが行われた。各発表は 1) 編入学生向けのサポート、2) 教科書を購入できない学生のための施策（オープンアクセス化など）、3) 3D プリンターを用いた発展的なカリキュラムの促進、4) 図書館改革に向けて他の教職員へいかに働きかけるか、といった多角的な内容であった。大学や学生の現状調査・分析に基づき、図書館の視点から教育の発展に向けて主体的にアプローチしていく姿勢に、とても刺激を受けた。

3. 所感

館種も異なる複数の米国図書館を見学し、最新機材を揃えた施設や、デジタル化によるコレクションの共有、電子資料の台頭に対する収集方針の検討状況や利用者サービスの変化など、いかに課題や将来の展望に向けて取り組まれているかを現地で見聞することができ、忘れられない経験となった。図書館員として、まだまだ学ぶべきことが無数にあることを実感したと共に、この経験を今後へ活かし努力していきたいと思う。

以上

最後に

今回、貴重な研修の機会を与えてくださった私立大学図書館協会をはじめ国際図書館協力委員会の皆様、ツアーを主催されていた図書館総合展運営委員会、丸善雄松堂株式会社、株式会社 JTB コーポレートセールスの皆様に、出発前から帰国後までにわたり大変お世話になりました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。